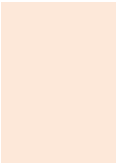


Youth Encounter on Sustainability

国際交流を通じたサステナビリティ教育
(法政大学・スイス工科大学共催)



目次



| | |
|--|----|
| YOUTH ENCOUNTER ON SUSTAINABILITY とは | 3 |
| LECTURES | 5 |
| DISCUSSIONS..... | 7 |
| ART | 8 |
| CULTURAL NIGHT..... | 9 |
| EXCURSIONS..... | 10 |
| CASE STUDY | 11 |
| DAILY LIFE..... | 12 |
| FACILITATORS | 13 |
| PARTICIPANTS VOICE | 14 |

Youth Encounter on Sustainability とは

Youth Encounter on Sustainability (略称 YES) プログラムは、国際交流を通してサステナビリティについて学び、考え、議論するための合宿形式の学習プログラムです。プログラム中には、講義、ディスカッション、グループワーク、ゲーム、エクササイズ、アート、カルチュラル・ナイトなど、さまざまな催し物が行われ、通常 25 カ国あまりから集まる 30 名程度の学生たちは、サステナビリティを通してお互いの絆を深め合います。

2000 年以降、スイス国立工科大学 チューリッヒ校が中心となり、世界各地（スイス、コスタリカ、スロバキア、ケニア、オーストリア、エジプト、オーストラリア）で、今日まで 29 回の YES プログラムを開催し、現在では、100 カ国、900 人を超えるアラムナイネットワークが広がっています（2009 年 7 月現在）。日本では法政大学との共催で、これまで 3 回（2007 年、2008 年ならびに 2009 年）の YES プログラムが開催されました。

極めてユニークな YES プログラムの特徴は、国際性、学際性、グループ・ダイナミックスの 3 点にまとめることができます。

国際性

ヨーロッパ、アフリカ、北アメリカ、南アメリカならびにアジアを網羅し、世界各国から多様な学生が集まるように選抜を行います。通常、25 カ国あまりから 30 名程度の学生が YES プログラムに参加します。また、教員・スタッフも、マサチューセッツ工科大学、ウィーン工科大学、スイス国立工科大学 チューリッヒ校、法政大学、東京大学等（2009 年度実績）などから集まり、国際性を重視してオーガナイズされます。プログラム中の共通言語には英語が用いられます。2 週間、英語漬けの生活を送ることにより、学生たちの英語力も格段に向上します。

学際性

理系・文系を問わず、多様な専攻分野の学生が集まるように、選抜を実施します。また、プログラム中の講義においても、さまざまな分野からサステナビリティにアプローチし、視野を広げることを重視します。世界各国から多様な専攻分野をもった教員・学生が集うことにより、極めてオリジナリティの高いユニークな視点からのディスカッションが可能になります。

グループ・ダイナミックス

プログラムが開催される 2 週間の間、参加者・教員は同じ建物に宿泊し、寝食を共にします。最初は、手探りで会話を始める参加者たちも、2 週間一緒に生活することにより、徐々に絆を深め合っていきます。プログラム最終日のフェアウェルパーティでは毎年、泣き出してしまう学生が続出します。多様な文化・言語・専攻をもった学生たちが強固な人的ネットワークを構築できることも、YES の優れた特徴の一つです。

モデルスケジュール

YESプログラムでは例年、予め詳細なスケジュールを決めません。というのは、例年、多様な学生が集まり、毎回、学生たちの興味が異なるため、そのときの状況に応じて柔軟にトピックや形式を変更していくことが必要になるからです。以下に示すのは、2009年に日本で行われた実績を基礎にしたモデルスケジュールです。レクチャーの具体的なトピックは、教員紹介のページをご参照ください。

| 日程 | 1日目 | 2日目 | 3日目 | 4日目 | 5日目 | 6日目 |
|------|-------------|---------------------|--------------|-----------------|-------------|------------------------|
| トピック | 参加者到着 | イントロダクション | 自然・ヒューマンシステム | エネルギーとマテリアル | エネルギーとマテリアル | 家電リサイクルセンターと東京湾埋立地等の見学 |
| タイプ | | ・講義 ・エクスカージョン | ・講義 | ・講義 ・グループワーク | ・ワークショップ | ・エクスカージョン |
| イベント | | ・自己紹介 ・キャンパスウォーク | | | ・スポーツ | |
| 宿泊施設 | 法政大学多摩キャンパス | 法政大学多摩キャンパス | 法政大学多摩キャンパス | 法政大学多摩キャンパス | 法政大学多摩キャンパス | 法政大学多摩キャンパス |

| 日程 | 7日目 | 8日目 | 9日目 | 10日目 | 11日目 | 12日目 |
|------|-------------|---------------------|-----------------------|---------------------------------------|---------------------------|---------------|
| トピック | 企業と経営 | システムダイナミクス | 心理学と個人の変容 | 富士セミナーハウスへの移動 (道中でハイキング等観光スポットの訪問) | キャリアインパクト | ケーススタディ |
| タイプ | ・講義 | ・講義 ・パネルディスカッション | ・講義 ・グループワーク | ・エクスカージョン | ・参加者プレゼンテーション ・ワークショップ | ・グループワーク |
| イベント | ・スポーツ | ・スポーツ | ・フィッシュバンクゲーム ・スポーツ | ・カルチュラル・ナイト | ・サステナビリティカフェ | ・フォトセッション |
| 宿泊施設 | 法政大学多摩キャンパス | 法政大学多摩キャンパス | 法政大学多摩キャンパス | 法政大学富士セミナーハウス | 法政大学富士セミナーハウス | 法政大学富士セミナーハウス |

| 日程 | 13日目 | 14日目 | 15日目 | 16日目 |
|------|----------------------------------|---------------|---------------------------|------|
| トピック | 多摩キャンパスへの移動 (道中で生物多様性センターの訪問) | ケーススタディ | フェアウェルパーティ (新宿御苑などを訪問) | 解散 |
| タイプ | ・エクスカージョン | ・参加者プレゼンテーション | ・エクスカージョン | ・講義 |
| イベント | スポーツ | カラオケパーティ | | |
| 宿泊施設 | 法政大学多摩キャンパス | 法政大学多摩キャンパス | 都内旅館 | |

LECTURES

2週間のプログラムのうち、特に前半部分で多くのレクチャーを聞く機会があります。

〇〇学、××学というように、通常の大学の講義では、ある一つの学問分野をとりあげ、それについて体系的に学ぶことを重視します。一方、YESのレクチャーでは、文系・理系を問わない多数の分野について横断的に概観し、いろいろな見方を学ぶことに重点がおかれます。普段、自分が大学の講義で学んでいることが、その他の分野からはどのように位置づけられるか、外国の人からはどのように見えるか、など幅広い視点を身につけてください。

講師の方々は皆、それぞれの分野の第一線で活躍するエライ先生ばかりです。でも、YESプログラム中は、みなで寝食をともにして（ときには一緒にお酒も飲んで！）、参加者ともファーストネームで呼び合います。講義のあとは、毎回たくさんの参加者から質問が寄せられますが、これも、先生と参加者の「距離の近さ」がなせる業です。

講師紹介



Prof. Claude Patrick Siegenthaler
法政大学
准教授

担当講義
Economic Systems
The Corporation
Environmental Accounting
Introduction to Management



Dr. Roger Baud
AGS 所長
YES プログラム創立者

担当講義
Sensitization to Sustainability
The Growth Trap
Human Systems & Social Drivers
Water Privatization
Psychology and Ethics
Social and individual Change

文科系 の視点



國則守生
法政大学
教授

担当講義
Climate Change Economics




山路永司
東京大学
教授

担当講義
New Rice Farming Method
and Farmers' Reaction

外国
の視

日本
の視



Are we all Energy Hogs?

How many KWh of energy do you use up per year?

What is your personal CO₂ emission (Kg per year?)
*Multiply KWh/year by 0.22
 (varies by country from 0.1 to 0.3)*

How does this compare with the amount of CO₂ you emit as a living animal?

左に示したのは、講義内で実際に使われたパワーポイントです (MIT の Jeff Steinfeld 先生)。パワーポイントもちろん、英語です。ほとんどの参加者にとって英語は外国語であることを考慮して、図表やイラストをたくさん使い、分かりやすく説明してくれます。講義の途中でも、語学上の問題で分からないことがあれば、講師の先生をストップする権利が参加者には与えられています。YES では、英語「を」学ぶのではなく英語「で」学びます。英語は、世界中から集まる講師と参加者のためのコミュニケーションの手段なのです。

Prof. Peter Edward
 スイス工科大学
 教授

担当講義
 Introduction to Biodiversity



Dr. Stefan Gara
 ETA 環境マネジメント
 コンサルタント

担当講義
 Introduction to Energy
 Energy Systems & Mobility



Prof. Jeff Steinfeld
 MIT (マサチューセッツ工科大学)
 教授

担当講義
 System Thinking & Basic Earth System
 The Climate System
 Introduction to Energy
 Biofuels
 Energy Calculator



Prof. Wolfgang Wimmer
 ウィーン工科大学
 教授

担当講義
 Introduction to Materials
 Development of eco-product

理科系の の視点



日浦幹夫
 法政大学
 教授

担当講義
 Health Nutrition and Life-Style



本藤祐樹
 横浜国立大学
 教授

担当講義
 Energy Systems of Japan

注：講師の先生方の所属・肩書きは 2009 年 4 月時点、担当講義名は、YES JAPAN 2009 の際のものです。

DISCUSSIONS

YES プログラムでは、レクチャーをパッシブに聴き続けるのではなく、自らもアクティブに発言することが求められます。「あなた自身」はどう考えるのか、それを仲間に伝えてください。最初は外国人参加者のエネルギーに驚き、何も言えないかもしれません。しかし、ゆっくりでも、つたなくても良いから、あなた自身の考えを相手に表現することが、とても重要です。

同じ問題について議論しているはずなのに、国籍・文化が違えばその解釈・見方も大きく異なることが多々あります。それぞれの参加者が何を考え、何を感じているか、彼らの発言に耳をすませば、新しい発見が数多くあるはずです。



毎年恒例のサステナビリティ・カフェ。テーブルごとにトピックが与えられ、紙のテーブルクロスにマーカーで書きながら、議論します。ロウソクの優しい光が、参加者同士の距離をぐっと縮めます。

みんなで議論してみたいトピックはありますか、と問われ、輪の中央に出て発言するネパール人参加者。彼が提案したテーマは「発展途上国とサステナビリティ」。このオープンセッションでは、参加者自身が設定したテーマについて、みなで議論します。

Helping Non-Native speakers of English

- Please speak slowly and clearly. Speak to the whole group, not to a part of it
- Use plain English and easy words, do not use difficult terms, abbreviations or slang
- If you want to use special words or expressions that may not be familiar to Non-native speakers of English, do so with explanations
- BE PATIENT !!!



語学上の注意事項。ディスカッションにおいてネイティブ・スピーカーのみが有利になることがないように、細心の注意を払います。

グループディスカッションの様子。ずいぶんリラックスした格好だけれど、表情は真剣そのもの。

ART

YESプログラムでの共通言語は英語と、もう一つ、ART（芸術）です。言葉では表現できないこと、しづらいことをARTで表現します。「英語では言えない、ましてや外国人相手に・・・」ということでも、意外と絵に描いてみると伝わったりします。

プログラム中は、ドイツ・ハンブルグを拠点にして活躍する芸術家である Klaus Elle さんが、参加者にARTの手ほどきをしてくれます。後半の1週間では、夜のフリータイムを使って、みなで一つの大きな油絵を完成させます。20カ国以上から集まった参加者30人以上が全員で一つのものを完成させる、ARTならではの魅力です。



YESプログラムART担当のKLAUS ELLEさん。ARTの視点からサステナビリティを論じ、実践します。



油絵に取り組むネパールからの参加者。表情は真剣そのもの。20カ国以上の「サステナビリティ」が一枚の板の上に表現されます。（この油絵の完成版は本報告書の表紙に掲載されています。）



「あなたのグループが考えるサステナビリティを漫画化しなさい」という課題を与えられて、グループで相談しながら、恐る恐る描き始める参加者たち。

完成した漫画をみんなの前で発表します。英語で説明するけど、絵で表現してあるので、少しはラク(?)

国際的なグループで描いた漫画は国籍不明でどこことなくエキゾチック。

CULTURAL NIGHT

カルチュラル・ナイトは、例年、プログラムの中盤にさしかかった頃、富士セミナーハウスにて行われます。参加者は、それぞれの出身国のコスチュームをまとったり、歌やダンスを披露し、自国の紹介をします。これまで一緒に学んできた仲間の文化に触れ、また海外の仲間に日本を紹介することにより、お互いをよりよく知り合い、国際交流を図ります。

カルチュラルナイトの後は、そのままパーティとなり、大変に盛り上がります。「YES を通してもっとも印象的だった催し物は？」と問われて、このカルチュラル・ナイトを挙げる参加者は少なくありません。



伝統的なコスチュームを着て、自国の紹介をする海外からの参加者。左は、日本人とメキシコ人によるメキシカンダンス。



毎晩、秘密で特訓してきたソーラン節を披露する日本人参加者



カルチュラルナイトのあとは、恒例の国際パーティ。最後はみんなで片付けます。

EXCURSIONS

プログラム期間中、バスを借り切って、環境関連施設を見学に行きます。2009年には、ハイパーサイクル（家電リサイクル施設）、中央防波堤（東京湾の廃棄物の埋立地）、生物多様性センター（富士吉田市）などを見学しました。この他にも、浅草、東京都庁、富士山のみもとでハイキングなど、日本の観光名所も訪問します。外国からの参加者にとっては、道中、珍しいことばかり。「どうして日本では燃えないゴミと燃えるゴミに分けるの?」「おみくじって何?」「異様に日焼けした、あの女子高生は外国人なの?」などなど、質問攻めにあります。私たち日本人にとっては、当たり前なことでも、日本に初めて来た外国人にとっては、そうではありません。彼らが納得するような説明を・・・と試行錯誤するうち、自分の国「日本」について意識的に考えるようになります。



家電リサイクル工場見学の一幕。ハイテクな設備に、参加者は大感激。一方、工場の担当者の方々は、元気にはしゃいで質問ばかりする YES グループに驚きを隠しきれない様子。



家電リサイクル工場の方たちに感謝を込めて、20カ国語以上の言語で「ありがとう」が書かれた色紙。「このような色紙は前代未聞です!」と、担当者の方も感激。



侍のコスチュームに着替え、セップクの真似をするコスタリカからの参加者。日本の文化に興味津々。



ハイキングの途中で記念撮影。綺麗に見える富士山に一同感激!

CASE STUDY

プログラム後半のもっとも大きなイベントはケース・スタディです。6-7人で構成されたグループで、それぞれがソーシャル・ビジネスを起業する前提で、ビジネス・プランを考え、みなの前でプレゼンテーションします。小グループとは言え、それぞれのメンバーの文化も言語もまったく違う国際的なグループ。うまくコミュニケーションをとりながら、一つのゴールに向かうにあたっては、困難の連続です。でも、参加者間の強い友情が芽生えるのも、このグループ・ワーク。過去には、プログラム終了後、参加者たちが実際に国際的なソーシャル・ビジネスを起業した例もあります。



ああでもない、こうでもない。一生懸命に議論しすぎて、ついには、ガラスにマーカーで図表を描いて、グループの仲間に自分のアイデアを説明した参加者。



ケース・スタディの目標は、人種・国籍に関係なく、お互いに助け合って一つのゴールにたどり着くことです。



プレゼンテーションの様子。毎晩、夜遅くまでかかってみなでまとめあげてきただけに、発表者の表情は真剣そのもの。緊張した時間が流れます。



カザフスタンの水資源に関するソーシャル・ビジネスを扱ったプレゼンテーションのパワーポイント。カザフスタン出身の参加者もいるので、説得的なビジネスプランに仕上げることができます。

DAILY LIFE

2週間に渡るプログラム期間中、すべての参加者は同じ屋根の下で寝食をともにして生活します。昼間は、みっちり勉強、夕方はみんなでスポーツ、ディスカッションなど、思い思いに過ごし、夜は飲み会、カラオケパーティなど、寝る間を惜しんで活動します。一緒に生活しているからこそ、分かち合えるものがあります。最初は知らない国からきた外国人を警戒(?)していても、2週間も一緒に暮らせば、大切な仲間になります。



押入の使い方を間違える外国人参加者。この後、ふすまを壊して、ファシリテーターにこっぴどくしかられる羽目に・・・。



お酒を片手に、国際交流



←ビュッフェ形式の食事。「トーフって何?」、日本の食べ物について質問されます。キッチンの片づけは、当番制。参加者たちが交代で片付けます。重労働ですが、一緒にお皿を洗いながらも、意外と話がはずむものです。

昼食のSUSHIと記念撮影→。

宗教上の理由で豚肉が食べれない、牛肉が食べれない、などなど、食文化も参加者によってさまざま。



夕方のフリータイムには、スポーツ

FACILITATORS

「二日酔いで寝てる場合じゃありません、レクチャーが始まりますから、起きてセミナールームに移動してください。」毎朝、全館放送で参加者と講師を起こすのは、聞きなれないファシリテーターと呼ばれる人たちです。ファシリテーターの仕事は、プログラム中のイベントの企画・運営から、飲み会のオーガナイズまでイロイロ。慣れない土地で病人がでたときには、病院に連れて行って、通訳もこなします。参加者とともに生活し、密接にコンタクトをとりながら、時には舞台裏で YES プログラムを支えます。



Fabio Segurra
LGT Venture
Philanthropy

冗談ばかり言っているコロンビア人というのが第一印象。だけど、実はソーシャルビジネスについて、極めて豊富な経験を持ち、その魅力的な人柄で参加者全員を虜にするカリスマ・ファシリテーター。



東健太郎
法政大学 非常勤講師

2009 年はチーフコーディネーターを務める。飲み会では夜遅くまで飲みすぎ、よく二日酔い。でも、元気なふりで皆を起こし、参加者が勉強中に昼寝しているとか・・・(?)。可能言語は日独英。



中村玲未
スイス・プライスウォーター
ハウスクーパーズ勤務

ヨーロッパ在住 6 年間。豊富な国際経験を活かして、参加者全員と密にコンタクトをとり、状況を把握する。日独英仏に堪能なうえに、実は、メキシカンダンスも得意。



大熊織雄
法政大学社会学部 4 年

2007 年に YES に参加し、2008 年と 2009 年にファシリテーターを務める。参加者一人一人の性格を的確に捉えて、グループ分けできる手腕にみな脱帽。最年少なのに、頼りになるファシリテーター。



毎年恒例のファシリテーターによる二人羽織（カルチュラル・ナイトにて。）これも仕事のうち(?)、の割にはずいぶんと楽しそう。

PARTICIPANTS VOICE

Personal Statements (authorized for Hosei University to use for public purposes)

Sayuri Ikeda, Japan, International Communication, International Christian University, 2nd undergraduate, age 20

One of the most important things I have gained in YES is that I have earned friendship. All of the participants with different nationalities, views, values and cultures influenced me in many ways and broaden my view. Through the discussions, we learned a lot about each other and made us able to build true understanding which is the most important aspects in building sustainable world.

Simona Sirvydaite, Lithuania, Archeology, 3rd year Bachelor, Vilnius University, age 21

YES course was the course that expanded my individual understanding of the world and global problems. It motivated me to start looking for solution of such problems – so YES program is an ideal start for that.

Tetiana Nemitchenko, Ukraine, Environmental Management, graduate (5th year), Odesa State Environmental University, age 21

YES course contributed me in my personal and professional development. I have received advanced knowledge on sustainable development. I believe I will be able to apply gained knowledge in the future. In terms of cultural exchange, I gained knowledge not only about Japan, but other countries as well. Among the benefits of the YES course, I would like to emphasize that participants are able to make strong network. I would really be glad to see more students and participants from the course in the future. I do believe that course should be growing.

Additional: Thank you for all team members.

Zair Dominguez-Trinidad, Mexico, Chemical Engineering, 5th year, University of Veracruz, age 22

The course YES Japan 2009 was an amazing socio-cultural experience with meanings of change to sustainable art of living and working.

This course was really important course which not only has contributed to expand the borders to other areas of study, but also to act with environment-sociological basis. It has been remarkable to consider the importance of society in economy, technology and sciences that we have the opportunity to change the current art of life of the modern world to a better equitable and environmentally friendly perspective making it attractive for companies, corporations, universities, government and people.

I really want to thank the Hosei University for supporting this course and sustainability. I admire the people who are supporting this course because despite the global economic crisis they believe in YES and they have the vision to improve the world through sustainability. You are the drivers behind the history of change of the humanity. Thanks.

Serik Dossayev, Kazakhstan, Master of Economics (study already completed), University of Trier, age 25

YES course is great opportunity to inspire yourself to create new ideas!

Wang Weina, China, Environmental Government, Freiburg University, age 29

YES course provides to the Youth a strong call to consider sustainability issues.

Tulsi Giri, Nepal, Development Studies/Sociology, Bachelor completed, Tribhuvan University, age 23

YES course is great. All my group friends are so motivated and passionate about working on sustainability. I feel like I now have a think-tank behind me supporting my work. I will keep on working for YES team and all

my team members to realize, to meet and to fulfill our common dream “sustainable world”. I will commit and dedicate myself.

Charles Hunter, USA, Aviation, undergraduate senior, Jacksonville University, age 25

I feel the course has opened my eyes to point of life not previously encountered.

Chad Worth, USA, Industrial Engineering, Study completed, California Polytechnic State University San Luis Obispo, age 24

The YES program provided me with a multicultural, multidisciplinary experience like I never thought I would have. The value of program is not in the just the amazing content, but more importantly the process in which it is implemented. Young people are forced to think critically outside the box about the real challenges facing global community regarding sustainability. I will go home with a deeper sense of understanding and purpose about my career and life work.

Shotaro Tsuyumu, Japan, Humanity and Environment, 3rd grade, Hosei, age 20

Actually, it was really hard for me to understand the lectures. However, I could experience lots of things which I had never seen and heard. YES course is not my goal. I will continue to learn about sustainability in order to achieve it in the future.

Pariva Dobriyal, India, Ecosystem Services, Research 1st year, Wildlife Institute of India, age 22

YES course was very innovative and informative for me. I got a lot of information on various topics. But the most important thing was the discussion and brainstorming we have done during our lectures with our groups. It provided me a chance to come across and meet exchange of thoughts with people of different backgrounds.

It was a big platform for people who want to work on sustainable development, to learn how and why we have to achieve the sustainability.

Ross Tunmer, New Zealand, Engineering, Graduate Masters, Auckland University, age 25

One of the best experiences of my life. The course lived up to expectations and more. Most importantly, I have made some great friends and have access to a global network where we can share ideas and work together to build a sustainable world. I would recommend to anyone at any level of study. You will not regret it.

Su Qiu, China, Sustainability Science, Master 2nd grade, University of Tokyo, age 26

All the faculty members are just perfect! And also the participants.

Magdalena Segura Jurado, Colombia, Business Administration, completed, Pontificia Universidad Javeriana, age 31

Sustainability should be taken as seriously as a religion for a believer. It is a thought that came to my mind after enjoying a pleasant coffee night with my colleagues.

Doroteya Todorova, Bulgaria, Environmental Protection & Sustainable Development, Masters, age 29

YES Japan is a unique course which gives the opportunity for participants from all over the world to work together for a better, more sustainable future.

The curriculum of the program includes a wide range of arguments related to sustainable development and the participants are not only “recipients” of information, but active participating in the learning process.

The multicultural environment is vital for the success of the course.

Quyen Nguyen, Vietnam, Sociology, final year in undergraduate, Academy of Journalism and Communication Vietnam, age 21

YES is such a uniquely spectacular program for anyone who loves challenges. Through an intense program with many interesting lectures and group discussions, case study, together with great outdoor activities, we had chance to discover more about ourselves, to learn from many people coming from different countries with diverse cultures. This gives us more motivation and makes us believe that together we can create a whole better new world.